

# 外来語の日本語化規則の習得について

## — 中国語母語話者を対象に —

張 金龍

### 要 旨

本研究では、中国人日本語学習者を対象に、テスト調査を通して、その外来語の日本語化規則についての習得状況を、規則ごとに学習レベルごとに考察し、また、アンケート調査を行い、中国人日本語学習者における外来語についての意識状況を明らかにしようとしている。その上で、中国の日本語外来語教育に提言するつもりである。

### 【キーワード】

外来語    日本語化規則    習得状況    意識状況

### 1. 問題意識

外国人日本語学習者にとっては、実際の言語生活の中で外来語がよく使われているので、外来語を避けて通ることができないだろう。

しかし、英語を母語とする日本語学習者にとっても、英語以外の言語を母語とする日本語学習者にとっても、外来語の習得が難しいようである。

外来語の日本語化規則を習得し、規則に従って推測しながら記憶し、使用すれば、外来語の習得に役立つだろう。また、日本語学習者における外来語の日本語化規則の習得実態と習得過程を把握できれば、教師の指導や教科書の編集などにも助言できるだろう。

### 2. 先行研究概観

#### 2.1 外来語について

「外来語」という用語は研究者によって指す範囲が異なってくる。主に二種類の主張が挙げられる。一種は西洋の言語から日本語の中に入ってきた言葉を外来語という。もう一種は外来語が外国からきた言葉であるならば、漢語も中国語から日本語に入った言葉であり、またほかの言語からの言葉も考えると、外来語の中には西洋系の言語からのものと東洋系の言語からのもの、二種類がある、という意見である。本稿では第一種の定義を採用する。外来語の大部分は英語を原語としているので、本稿で考察の対象とするのは、主として、片仮名で表記される英語からの外来語である。

#### 2.2 外来語の日本語化規則の習得に関する研究

英単語の日本語化規則は新しい外来語の受容のときにも有効であり、外来語の習得のときにも有効であると言われているが、それについての研究は多く行われてきた。以下で時期順に見てみたい。

『外来語の形成とその教育』（カッケンブッシュ寛子 1990）は英単語の日本語化規則をよくまとめたもので、研究の基礎となったものである。

小林・カッケンブッシュ・深田（1991）では、初級の日本語学習者が外来語に見られる日本語化規則をどの程度習得しているかを調べた予備調査の報告を行った。48の英単語からなるテストを初級レベルの英語を母語とする日本語学習者23人を対象に実施し、統計分析のための数値を算出し、また誤用分析を行った。結果としては、単語ごとの正解率、規則ごとの正答率が共に低いことがわかった。また、各規則ごとにいくつかの問題点が見られたが、特に促音挿入、長母音化において問題点が見られた。

山下（1995）では、英語を母語とする初級日本語学習者の、外来語の促音と長音の日本語化規則習得の縦断的調査と中国語、韓国語を母語とする初級日本語学習者への横断的調査から、学習者が長母音化と促音挿入の規則を習得する過程を考察した。また英語母語話者とほかの母語話者の、外来語の促音と長音の日本語化規則の習得状況を比較した。

鈴木（2003）では、母語が英語でない場合、母語における音韻規則や、外来語への変化の規則が介在すると、英語話者よりも一段複雑な処理を強いられているという仮定を立てて、英語を日本語化するとき母語の影響がどう介在するかについて調査を行った。最後に「学習者はまず英語の音を韓国語化してとらえ、さらにそれを日本語化して書いたと考えられる」という結果を出した。

### 3. 先行研究の問題および本論の研究課題

先行研究から以下の研究課題が残されている。

(1) 先行研究には英語母語話者を対象に行った研究が

多いようである。中国人日本語学習者は母語が英語でなく、英語能力も違うので、日本語化規則の習得には英語母語話者と違うところがあると思われ、一定の規模を持つ中国人日本語学習者を対象に、その外来語の日本語化規則習得を考察し、習得の特徴を明らかにする必要がある。

(2) 先行研究は殆ど初級日本語学習者を対象に行ったが、日本語教育という角度から見れば、初級だけでなく、中級、上級学習者の日本語化規則の習得状況の研究も必要で、各レベルによって習得状況の推移を考察するのも重要である。

(3) 調査内容から見れば、先行研究には促音や長音などの特殊の規則を中心に行ったの多いが、外来語の習得研究からはほかの規則についての考察も必要である。

本論は主に以上の三つの問題を研究課題とし、中国人日本語学習者における外来語の日本語化規則の習得状況を把握し、習得過程を考察する。

#### 4. 研究方法

テスト調査とアンケート調査を行い、研究用のデータを収集し、統計学を利用して、考察する。

#### 5. 調査概要及び分析観点

本研究では、調査は主にテスト調査の形式で行い、補助的なアンケート調査も含まれる。

(1) テスト調査の概要と分析観点：

研究目的：中国人日本語学習者における外来語の日本語化規則の習得状況を把握し、習得過程を考察する。

調査対象：中国の日本語専攻の大学生である。具体的には、大学二年生（初級）、三年生（中級）、四年生（上級）という三つのグループに分けて、各グループに40人で、全部で120人である。

調査対象：カッケンブッシュ・大曾（1990）の中でまとめた日本語化規則によって選ばれた一定の数の英単語（教科書の外来語の語源から）からなるテスト問題である。テストに出る英単語の外来語は皆被験者がまだ習っていない単語に限られる。

調査方法：テストの英単語がアルファベットでかかれたカードを被験者にみせ、また音声で二回与えた後、それが外来語になった時、最も可能な表記を推測させ、また記入してもらう。

分析観点：①日本語化規則の正答率の推移をまとめ、考察を行う。②日本語化規則の誤答とその傾向、推移をまとめ、考察を行う。③日本語化規則の正答率を単語ごとに、規則ごとに、グループに分けて、習得しやすい単語や規則を調べ、その理由を考察する。④できれば、中国人日本語学習者における外来語日本語化規則の習得の特徴を考察し、その理由を分析する。

(2) アンケート調査の概要

①自分の外来語の日本語化規則について習得状況について。

②外来語の日本語化規則が外来語の習得に与える影響について。

③教科書や先生における外来語の日本語化規則への扱い状況について。

④外来語の学習の学習ストラテジーについて。

#### 参考文献

- 『外来語の形成とその教育』 1990 国立国語研究所 大蔵省印刷局  
『外来語の総合的研究』 2001 石綿敏雄 東京堂出版社  
小林ミナ・カッケンブッシュ寛子・深田淳（1991）「外来語に見られる日本語化規則の習得—英語話者の調査に基づいて—」『日本語教育』74号 日本語教育学会 P48-P59

ちょう きんりゅう／北京日本学研究センター 修士課程2年

Zhangjinlong915@yahoo.co.jp